

マリボル (Maribor)

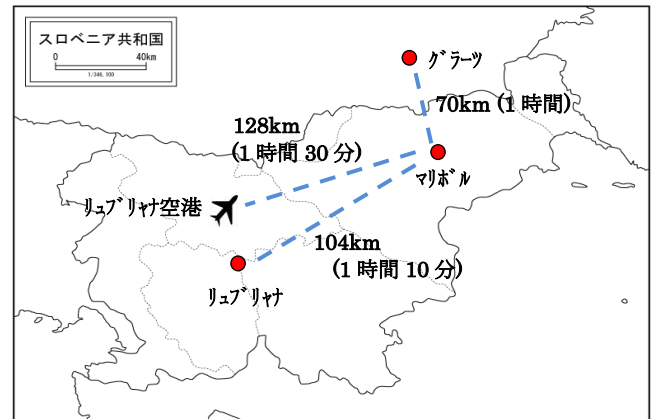
平成28年8月
在スロベニア日本国大使館

～マリボルの見所～

- スロベニア第二の都市、ドイツ語では「ドラバ川沿いのマールブルク」
- スロベニア国内でも有数のワインの生産地
- ギネスブックに認定された「世界最古のぶどうの木」
- 2012年、欧州文化首都に選出
- 日本での公演実績もある「マリボル国立歌劇場」



マリボルの町並みとドラバ川



1. 基本情報

(1) アクセス

- 首都リュブリャナから104km:
車で約1時間10分
バス(リュブリャナ駅発)で1時間30分～
2時間、1日8便運行
電車(リュブリャナ駅発)で2時間～2時間
30分、1日24便運行
- リュブリャナ(ヨジェ・プチニク)空港から
128km:車で約1時間30分
- オーストリア(グラーツ)から70km:
車で約60分

(2) 統計

- ・人口:111,832名(2015年12月現在)
- ・主要産業:機械・電気産業、製紙業、繊維加工業、ワイン製造
- ・平均総月収:1,497ユーロ
(約18.5万円、2015年)
(全国平均:1,555ユーロ)
- ・失業率:17.3%(全国平均は12.3%)

2. 市の概要

(1) 地勢

- 首都リュブリャナから北東に位置する、スロベニア第二の都市。街の北側に位置するピラミダの丘の麓にはブドウ畑が広がる。この丘に12世紀に城が築かれたことがマリボルの街の起源となった。街の南部を流れるドラバ川沿いには、樹齢400年を超える世界最古のぶどうの木がある。
- 市街地の南3kmにあるマリボル空港には、ウクライナやギリシャ、ロンドン等への季節就航便やチャーター便が発着している。

(2) 歴史

- 第一次世界大戦前、マリボル市の人口の80%はドイツ人で、20%がスロベニア人であり、都市と公共生活の多くがドイツ人の手に握られていた。そのために、市のドイツ語名「Marburg

an der Drau(マルブルク・アン・デア・ドラウ)」が主に知られていた。終戦後1918年以後、マリボル在住ドイツ人たちの多くがオーストリアへ向けて出国した。これに伴い、それまでマリボルにあったドイツ人学校やドイツ人関連の団体は新国家ユーゴスラビア王国で閉鎖されたが、それでも1930年代の市人口の25%はドイツ人が占めている状態だった。当時、文化的同化政策が少数派ドイツ人に対して進められたが、1930年代にこの政策は廃棄され、少数派ドイツ人の地位は改善された。

●第二次大戦が勃発すると、1941年、マリボルを含む周辺地域(シュタイエルスカ地方、オーストリアの「シュタイヤーマルク」)はナチス・ドイツに併合された。同年4月、「この国を再びドイツの手に」と支持者を鼓舞していたアドルフ・ヒトラーは、マリボルを訪問した。ナチス・ドイツはスロベニア人大量追放に着手し、スロベニア人をクロアチア独立国、セルビア、後にはドイツ国内にあるナチスの強制収容所へと追放した。ナチスの目標は、この地方のスロベニア人をドイツ化するか絶滅させることにあったため、多くのスロベニア人が人質にされ、後にはマリボルやグラーツの刑務所で銃殺された。これがユーゴスラビアのパルチザンが組織されるきっかけとなった。また、広範囲に渡る軍需産業を持つ工業中心地であったマリボルは、第二次世界大戦末期に連合国の組織的な空襲を受けることになった。

●終戦後、1961年には国内で2番目の大学となるマリボル大学が設立された他、重工業を基盤とし戦後復興を遂げるが、1991年にスロベニアがユーゴスラビアから分離独立すると、ユーゴスラビア市場を喪失したことで経済が悪化。その結果、失業率がおよそ25%に達し最悪の水準になったが、状況は1990年代半ばから改善された。

●2012年には欧州文化首都に選出され、コンサートや講演会等、各種文化関連イベントが開催された。

3. 見どころ

①世界最古のぶどうの木(Stara trta)

●マリボルにおけるワイン生産のシンボルとされている、樹齢400年を超えるぶどうの木。

●この木を描いた絵が、オーストリアのグラーツにあるシュタイヤーマルク州博物館に展示されている。その絵は1657年~1681年の間に描かれたものとされており、現在も同じ場所に同じ建物とぶどうの木が残っているため、少なくともこの木は400年以上前の木ではないかとされていたが、鑑定の結果これが正しいことが証明され、2004年に「世界最古のぶどうの木」としてギネスブックに掲載された。

●冬場の木は一見すると枯れているように見えるが、今なお収穫期には毎年35~55kgのぶどうを实らせている。

●この木を株分けしたものがブレッド城の中庭にある。



©2014 Maribor

②洗礼者ヨハネ教会

(Stolna Cerkev sv. Janeza Krstnika)

12世紀にロマネスク様式で建てられ、現在見られるゴシック様式の形になったのは、14～15世紀頃と言われている。正面にそびえる高さ57mの鐘楼は、以前あった鐘楼が落雷によって破損したため、18世紀に建て替えられたものである。



③フランシスコ会教会 (Frančiškanski Cerkev)

元来この地にあった修道院に増築する形でウィーンの建築家、リヒャルト・ヨルダンの設計により、19～20世紀に建てられたレンガ造りの教会。教会内部の絵画のほとんどは、ハンガリー人の画家、フェレンツ・プルジンスカイによって描かれた。主祭壇にあるマリア像は18世紀頃のもものとされている。



④マリボル城 (Mariborski Grad)

●15世紀後半、街を囲む城壁の一部として神聖ローマ皇帝フリードリヒ3世によって建設された。その後増築が繰り返されたため、バロック様式の教会やフェスティバルホール、ロココ様式の大階段など、様々な時代の装飾が見られる。

●このフェスティバルホールでは1874年にハンガリー出身の作曲家及びピアニストであるフランツ・リストによるコンサートも開かれた。また、皇帝レオポルト1世、カール6世、女帝マリア・テレジアなど歴史上の人物が居住していた記録もある。

●現在は、マリボルとその周辺地域の歴史、考古学、芸術に関わる資料を展示した博物館として利用されている。2016年4～6月には、日本人形展が開催された。



⑤マリボル国立歌劇場 (SNG Maribor)

1919年設立。1941年から1945年は第二次大戦の影響により歌劇場は閉鎖されたが、設立以来、通算で1500公演以上のバレエ、オペラ、演劇の上演を行っている。また、2014年には日本各地において公演(演目は「アイーダ」)を行った。



4. 特産品

ワイン

マリボル周辺地域は、スロベニア国内で最もワイン生産量が多い地域であり、主に白ワインの生産が盛んである。

●Šipon (シボン)

シボンは、ハンガリーではトカイ・ワインの原料となる品種で、一般的にはフルミントと呼ばれている。ナポレオンがそのワインを飲んだ際に、美味しさのあまり「Si Bon!(非常によい)」と連呼したのがその名前の由来という説がある。



© Irish Examiner Ltd

●Laški Rizling (ラシュキ・リズリング)

北イタリア原産で、一般的にはヴェルシュリースリング(Welschriesling、ロマンス語圏のリースリング)と呼ばれる。酸が際だった味から甘口まで、幅広いワインに用いられる。



© Vrutak

●Traminec (トラミネツ)

ドイツのゲヴェルツトラミネー(Gewürztraminer)のスロベニア版。この品種の起源は、古代エジプトまで遡ると言われているが、詳しくはわかっていない。香りに特徴がある。



© 2016 Bovin

●Rumeni muškát (ルメニ・ムシュカト)

マスカットから作られているワイン。スパイスの効いたアジア料理によく合うと言われている。



© Mercator

5. ワインセラー

●Dveri Pax

住所: Polički vrh 1 2221 Jarenina

電話: +386 (0)2 644 00 82

Email: office@dveri-pax.com

HP: www.dveri-pax.com

マリボル市郊外、ヤレニア(Jarenia)にあるワインセラー。マリボルから車で1時間半程のオーストリア領にあるアドモント(Admont)ベネディクト派修道院が1139年より有するワイナリー。ドイツ、オーストリア方面からの買付けが多い。2012年、ロンドンで開催された「Decanter World Wine Awards(イギリスのワイン雑誌「Decanter」が毎年開催する国際ワインコンクール)にて、Dveri Pax製造のワインが入賞している。